



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／東川 絵葉 岡山県教育庁生涯学習課 社会教育主事(主幹)
原田 尚 島根県浜田市立雲城小学校 教頭

分科会の進め方 13:30~13:35

1 家庭教育支援チーム“親だから”の理念と実践
～教育現場と連携して、きめ細かく繋ぐ・繋がる～ 13:35~14:05

緒方 恵理子(広島県尾道市) 尾道市向東地区家庭教育支援チーム“親だから” 代表

活動は平成20年からスタートした国の委託事業のモデルケースとして始まった。目的は全ての家庭にきめ細かな教育支援をすること、具体的には家庭教育学習の機会を提供し、子育てに関する情報を発信し、関係機関と連携して教育相談にも対応している。チームは、子育てサポーター、民生・児童委員、PTA、社協、青少年健全育成協議会、その他学識経験者有志で構成、幼稚園や小学校でのCAP講座(子どもへの暴力防止)を始め子育てサロンから小6まで、月齢にあわせた学習を提供。また、夏休みなど休暇中の様々な「子ども講座」、防災教室、音楽コンサート、ハーフ(2分の1)成人式なども実施している。特に赤ちゃんと中学生との「保育交流」は、家庭教育支援の大きな役割を果たしている。活動は教育現場との話し合いを経て決定してきたので、関係機関との信頼関係が確立し、家庭教育支援に関する地域の協働が成立している。

2 学童保育のない町の放課後の教育力
～地域ぐるみの放課後子ども教室～ 14:10~14:40

岩木 和美(山口県上関町) 上関町地域教育ネット 統括コーディネーター

平成27年度は、全校児童60余名のうちの58名が参加し、11名のスタッフのローテーションでプログラムを運営している。上関の放課後子ども教室は、平日は、放課後18:30まで、長期休暇中は7:30~18:30まで、毎日である。学校との連携ができて、小学校施設を利用している。地域ぐるみの子育て発想が浸透し、社会福祉協議会の「いきいきサロン」との交流、料理教室、竹細工教室、絵画教室、クロスカルチャーなどプログラムも充実してきている。子どもは異年齢集団の活動に慣れ、お互いを思いやる関係が育ち、地域の人々との交流をして、子どもにも大人にも異世代間交流の効果が現れている。

ティータイム 14:40~15:05

3 「教育・保健福祉」の連携によるアウトリーチを基盤とする家庭教育支援 15:05~15:35

廣末 ゆか(高知県) 中芸広域連合保健福祉課 課長

平成22年以降、中芸地区では、「子どもの育ち」を重視し、分野横断的な関係者を集めた「子ども支援部会」を結成し、家庭教育支援事業を展開している。この過程で、就学前の子どもの4割に発達上の心配があることが分かり、通常の母子保健事業だけでは、個別家庭の子育て不安には対応できないと判断するに至った。そこで「伴走型の支援体制」を築くべく、教育と保健福祉の連携による訪問型(アウトリーチ)支援の方法を取り入れた。具体的には、「家庭教育支援チーム」の編成、NPO職員による学校・学級支援、保護者へのヒアリングを導入し、個別家庭の状況に即した「聞き取り」、「観察」、「対応」を行ない、潜在化している事象やニーズへの予防的な支援活動ができるようになった。

4 「家庭教育地域リーダー養成講座」の実施
～「くまもと親の学び」プログラムをマスターしよう～ 15:40~16:10

石井 憲子(熊本県熊本市) NPO法人教育支援プロジェクト・マスターズ熊本 理事長

当該NPOが熊本市の委託を受けて、「家庭教育地域リーダー養成講座」を実施して3年、3回目になる。講座の企画運営を担当した。講座は、毎週1回、全10回で、中央公民館を会場とし、幼稚園や学校の見学研修も取り入れている。各回のテーマに合致する講師を招聘した。講座の力点は、保護者の集まりで話し合いの組み立てや進行のできるファシリテーターの養成においた。ワークショップの実習等を通して、実際の現場で進行役を務める受講生も育ってきた。